

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録
(令和3年度 第3回)

- 1 日時 令和4年2月25日(金) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立今泉小学校 家庭科室
- 3 出席委員 中野隆則会長、守屋佐千子副会長、
和泉雅幸委員、木島智恵美委員、
和田修二(校長)、住田晶子(教頭)

4 会議の内容

(1) 学校長および会長挨拶

和田校長：増築校舎がついに完成した。3月には内覧会や増築校舎完成記念式典が行われ、子どもたちに校舎をお披露目する。本日は、下半期の学校教育活動について報告する。今年度最後の学校運営協議会、委員の皆様には意見を述べていただきたい。

中野会長：新型コロナウイルスのオミクロン株で第5波があり、さらに第6波が心配されている。学校を運営している教職員の皆さんは今まで経験していないことを経験している。新型コロナ対策が始まってからもう3年目になる。学校、家庭、地域が連携をとって、学校を応援していきたい。本日はよろしく願います。

(2) 協議事項

【議題①：11月以降の学校教育活動について】

和田校長：11月から12月の学校教育活動について、行事ごとに説明する。

◆運動会について

本来なら皆さんを来賓としてお招きしたかったが、感染状況よりご遠慮いただいた。6学年を2部制にして行った。多くの保護者に参観していただいた。11月20日の開催だったので、寒さを心配していたが、当日は非常に良い天気で、絶好の運動会日和だった。6年生の演技を見ていただいて、子どもたちの成長をお伝えしたい。

※6年生のソーラン節の動画を視聴

当日に向けて、各学年練習に励んできた。子どもの成長を実感した。学校教育活動ならではの一大行事となった。

◆5年生の野外教育活動について

10月30～31日に1泊2日で、静岡県御殿場市で野外教育活動を実施した。この頃の感染状況では実施することができた。のびのびと体験学習することができた。

◆登校班に関する保護者アンケート結果について

今後の登校班の在り方について検討するために行った保護者アンケートの結果は、約8割の保護者が登校班での登校が望ましいと回答している。令和4年度も登校班で登校させたい。

◆オンライン授業の試行について

感染症や災害等の非常時において、一定の期間児童がやむを得ず学校に登校できない場合などを想定し、可能な対応策として試行したもの。方法は1人1台タブレット（iPad）を持ち帰り、家庭と学校を同時双方向型のウェブ会議システム（Google Meet）で接続し、児童は家庭から教室の先生の授業にオンラインで参加した。今回のオンライン授業では、児童とのコミュニケーションに関して、いくつかの課題が抽出できた。

中野会長：運動会は保護者がいる前でできてよかった。子どもたちも嬉しかったはず。

オンライン授業の試行については、社会教育でオンライン会議を行ったが、なかなかつながらず難しい。コロナの時期だからやっていくべき。

木島委員：感染状況の変化する中、合間を縫って学校行事を行うことができてよかった。

今、学校応援団が朝の検温を手伝っている。様々な制約の中ではあるが、子どもたちが笑顔でおはようと言ってくれる。学校応援団として、できるときにできる形で支援をしたい。

和泉委員：運動会で6年生が踊っていたソーラン節でハッピーが揃っていたが…

木島委員：以前から揃えていた。手作りする年もある。

和泉委員：オンラインについては、最初はうまくいかないが、徐々にできるようになる。学校は良い環境が整っている。

和田校長：オンライン授業は情報の伝達はできる。大学の授業のような講義型はできるが、小学校の授業では課題もある。小学校の学習は、先生が子どもたちに問いかけ、子どもたちの様子を見て、やり取りをしながら授業を進めていく。

オンライン授業の試行をして分かったことは、先生たちが、子どもが学習内容を分かったのか分かってないのかが理解しづらいということ。

守屋委員：子どもたちの取り組みは見えないのか。

和田校長：課題が終わってからノートなどをカメラに向かって見せることはできるが、取り組んでいる途中の状況を把握することは難しい。

和泉委員：オンラインは決して万能ではない。

和田校長：小学校段階の授業は対面が一番と考える。

続いて、1月から2月の学校教育活動について、行事ごとに説明する。

◆増築校舎について

「広報えびな1月1日号」の表紙に写真が掲載されたように、待望の増築校舎の完成が近づいてきた。新しい校舎は、既存の校舎と違い、各フロアの中央に多目的スペースが設けられており、各教室の可動式の壁を開けて、多目的スペースと一体化することが可能になる。新しい学校生活のスタイルを創り出したい。

◆増築校舎完成記念航空写真について

子どもたちから募集したイメージマークのうち、決定したイメージマークを航空写真の図案にも使用した。増築校舎の完成を機に、このイメージマークを広めたい。

◆学校臨時休業について

2月上旬に複数の学級で学級閉鎖になった。2月7日（月）に児童の陽性者、濃厚接触者、体調不良者等が多いため、市教委と相談し、学校閉鎖に踏み切った。金曜日より3連休の週だったので、実質の休業は火・水・木の3日間。その後は落ち着いて陽性者等は減った。オミクロン株の感染力の強さに驚かされた。

◆修学旅行の代替行事について

6年生の日光修学旅行は、再延期した2月28日出発の予定だったが、まん延防止等重点措置の延長のため、中止の判断をした。行けなかったことは非常に残念。6年生の心情を考え、修学旅行の代替行事を考えた。3月11日に新校舎にお泊り会、14日によみうりランドに卒業遠足に行きたい。

◆学校評価アンケートの結果について

（学校日より380号の資料にて説明する）

守屋委員：2月7日（月）の陽性者、濃厚接触者、体調不良者等はどこで感染したのか。

和田校長：特定の学年ではなく、全学年で該当児童は見られた。どこで感染したかは定かではない。どこで感染してもおかしくない状況。

守屋委員：子どもは罹っても熱が出ないことがある。

和田校長：発熱の症状だけでなく体調不良にも気を配っている。入院した児童はいない。

中野会長：学校閉鎖になったとたん地域が静かになった。

和泉委員：県内の感染者は結構な数で、病院はひっ迫している。県としては経済を回していく必要もあり、東京都と歩調を合わせて対応していく。

木島委員：まん延防止等重点措置が解除されないと、修学旅行の代替行事はどうなるのか。

和田校長：県外に宿泊するわけではないので、市教委と協議したうえで実施したい。

和泉委員：まん延防止等重点措置が解除されないうちは県外への移動はセーブすることになるだろう。

学校評価アンケートは96%が肯定的な回答で素晴らしい結果だ。

「あてはまらない」の割合が高い項目をみると「言葉遣い」「挨拶」「環境」等は家庭の協力が必要ではないか。「学校や地域の特色を生かした教育活動」の項目はこんなにやっていて10%とは…。

木島委員：保護者の「学校や地域の特色を生かした教育活動や行事を行っている」は10%が「あてはまらない」と回答しているが、9割は「あてはまる」と回答している。学校は地域の特徴を生かした取り組みをやっている。

和泉委員：児童の結果もすごく良い。全然問題視する必要はない結果といえる。

和田校長：気になったのは「あいさつ」。保護者は挨拶ができていないと捉えている。

木島委員：言葉遣いはあそびっ子の時にも気になり注意する。友達のように親しみを感じているのはいいが、お願いするときは「やって」ではなく「お願いします」と言うべき。直していかないといけない。周りの大人が子どもを育てている。

和田校長：挨拶については、校長講話で校長先生とどっちが先に挨拶をするか、という話をしてから、挨拶を積極的にする子が出てきた。

和泉委員：校長先生が毎朝、横断歩道で子どもたちに挨拶をしているのが大きい。

中野会長：朝のあいさつ運動では児童のテンションが低い。帰りは元気。きちんと挨拶できない子は家でも言っていないのではないか。

和田校長：分かりやすい授業については、保護者アンケートで9割以上支持された。

和泉委員：アンケート結果としては申し分ない。

和田校長：児童のアンケートで「自分の意見を発表している。」の結果が悪かったが、これからの時代は自分の意見を言えないといけない。考えを発信できる学校になればいいと思う。

和泉委員：アンケート結果から課題を見つけて改善していくことが大切。

木島委員：修学旅行代替行事については、学校応援団から手伝いは必要か。

和田校長：本校教職員から協力していただける先生が多くいる。

◆学校のグランドデザインについて

和田校長：学校教育目標（よく考える子・心豊かな子・健康な子）は、昔から変わっていない。今の時代にあっているのか疑問がある。「よく考える子」については、今の時代、考えているだけではだめ、自分で考えを発信できる力が必要。学校教育目標をもっと地域に浸透させたい。そのためにもっとシンプルに。例えば「かしこく、やさしく、たくましく」とし、具体的な姿はそれぞれ目指す子ども像で示していく。

守屋委員：学校教育目標で「健康な子」が気になっていた。健康な子ばかりではない。

和泉委員：「たくましく」は必要。打たれ強い人間になることは大切。「かしこく」は勉強が

できないといけないような感じを与える。

木島委員：「かしこく」はガリ勉のイメージ。それに代わる言葉があればいい。

和田校長：1人1台端末を使って、プレゼン力や人に伝える力を育てたい。

中野会長：今泉小学校の環境が変わってきた。住む人もいろいろなところからきている。分かりやすい学校教育目標は必要。

和泉委員：学校や子どものことをこれだけ考えているのだから、きっといい方向に変わっていく。校長のリーダーシップが重要。

【議題②：令和4年度学校運営協議会について】

※各委員へ令和4年度学校運営協議会委員の意向を確認する。（非公開）

和田校長：学校運営協議会はいろいろな視点からご意見をいただくために、様々な立場の方に参加していただいている。令和4年度は学校運営協議会に保護者の方を加えたい。

（3）閉会あいさつ

守屋委員：6年生の行事は大人になっても思い出に残るので、子どもの心情を大切にしていきたい。

新しい住人が増えていく地域。学校が地域のコミュニティの核になることを願っている。